

2015年7月17日

福島の子ども達に贈る間伐材の積み木づくりを実施

共栄火災OB10名と現役社員12名がヤスリがけなどの仕上げ作業を実施
完成した400個をいわき市の保育所へ寄贈

共栄火災海上保険株式会社(本社:東京都港区新橋 1-18-6、社長:杉中 洋文)は、社会貢献活動の一環として、6月16日(火)、当社本社ビルの会議室にてOB・OG10名(男性9名、女性1名)、現役社員12名(男性7名、女性5名)の計22名により、福島の子供たちに贈るための間伐材を原材料とした積み木づくりボランティアを実施しました。

今回の取り組みは、森林づくりを推進するNPO法人「森のライフスタイル研究所」(本部:長野県伊那市、代表理事所長:竹垣英信氏)のご協力のもとに開催したものです。2種類あるヤスリの使い方や板面によって異なる研ぎ回数、力の入れ方などに気を配り、小さな積み木を丁寧に仕上げていきました。また、森に関するクイズやワークショップを行うなど、森林の大切さを楽しみながら学びました。

作業場では、OBと現役社員と一緒にグループを組み、本活動の主旨や意義を共有するとともに、各自の近況報告をしあうなど、終始和やかなムードに包まれました。OBからは「仕事を退いた今でもボランティアを通じて会社に関わっていけるのは嬉しい。これからも継続して取り組みたい」、現役社員からは「お世話になった先輩方も久しぶりに会えて、一緒に子供たちの笑顔を想像しながら作業しました。私たちが作った積み木でたくさん遊んで欲しい」といった声がありました。完成した積み木は合計400個で、同研究所を通じ福島県いわき市の泉保育所へすべて寄贈しました。

当社では、今回の社会貢献活動のほかにも、バレンタインデーの義理チョコとホワイトデーのお返しを、もっと有意義な目的に使えないかと女性社員有志が発起し、1993年から20年以上にわたり「義理チョコ・あげたつもり・もらったつもり」バレンタイン・チャリティ募金を実施しています。

また、各家庭で不用になった衣料品や余っている家庭常備薬、おもちゃ、文房具、裁縫用具などを集め、マリ共和国(西アフリカ)の難民キャンプへ贈る「クリスマス・チャリティ」を、同じく1993年から実施しています。毎年集まった募金や支援物資は、NGO「マザーランド・アカデミー・インターナショナル」を通じて井戸や学校、医薬品倉庫の建設、砂漠化防止のための植林等に活用されています。

今後も、このような社員参加型の各種活動を積極的に実施していきます。

○NPO法人「森のライフスタイル研究所」のホームページ

<http://www.slow.gr.jp/index.html>

本件に関するお問い合わせ先

共栄火災海上保険株式会社 広報室 〒105-8604 東京都港区新橋 1-18-6 ☎03-3580-4221(ダイヤルイン)

広報担当: 小林、古賀

< 寄贈された積木で遊ぶ子どもたち >

